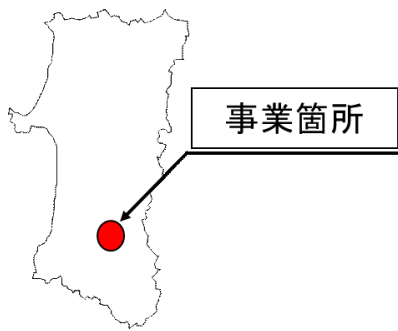


再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：環境安全・防災課
担当課長名：渡辺 学

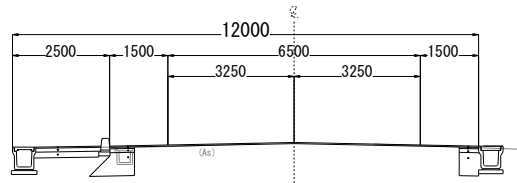
事業名	スマートICアクセス 主要地方道 <small>よこて おおもりおおうち</small> 横手大森大内線 <small>さんぼんやなぎ</small> 三本柳工区	事業区分	地方道	事業主体	秋田県						
起終点	自：秋田県横手市上真山 <small>よこて かみしんざん</small> 至：秋田県横手市赤川 <small>よこて あかがわ</small>			延長	2.2 km						
事業概要	主要地方道横手大森大内線は横手市街地において卸センターや病院、小中学校が隣接する路線であり、横手北スマートICへのアクセス機能を担うことから、渋滞緩和、地域の安全確保を目的とし国道13号～三本柳地区までの延長約2.2 kmを整備するものである。										
H27年度事業化	都市計画決定なし	H27年度用地着手	H28年度工事着手								
全体事業費	約19億円	事業進捗率	約32%	供用済延長	0.6 km						
計画交通量	8,500～13,800台/日										
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	2.1	総費用 (事業費/維持管理費)	12/18億円	総便益 (走行時間短縮便益/走行経費減少便益/交通事故減少便益)	27/37億円					
	(残事業)	2.3	事業費：10/16億円 維持管理費：2.0/2.0億円	走行時間短縮便益：27/37億円 走行経費減少便益：0.40/0.60億円 交通事故減少便益：0/0億円	基準年：平成31年						
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量：B/C=1.9～2.3(交通量±10%)</td> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量：B/C=2.0～2.5(交通量±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=1.9～2.3(事業費±10%)</td> <td>事業費：B/C=2.0～2.5(事業費±10%)</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=1.9～2.3(事業期間±20%)</td> <td>事業期間：B/C=2.0～2.5(事業期間±20%)</td> </tr> </table>					(事業全体) 交通量：B/C=1.9～2.3(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C=2.0～2.5(交通量±10%)	事業費：B/C=1.9～2.3(事業費±10%)	事業費：B/C=2.0～2.5(事業費±10%)	事業期間：B/C=1.9～2.3(事業期間±20%)	事業期間：B/C=2.0～2.5(事業期間±20%)
(事業全体) 交通量：B/C=1.9～2.3(交通量±10%)	(残事業) 交通量：B/C=2.0～2.5(交通量±10%)										
事業費：B/C=1.9～2.3(事業費±10%)	事業費：B/C=2.0～2.5(事業費±10%)										
事業期間：B/C=1.9～2.3(事業期間±20%)	事業期間：B/C=2.0～2.5(事業期間±20%)										
事業の効果等	<p>○混雑緩和 沿線には物流基地が点在し、大型交通量が多く、混雑が多発しているが、拡幅整備により混雑を緩和</p> <p>○救急医療活動支援 横手北スマートICへのアクセス性が向上することにより、当該道路周辺地域から三次救急医療施設等である平鹿総合病院へ円滑な救急搬送が可能となる</p>										
関係する地方公共団体等の意見	以下の団体から整備促進について要望あり。 ・横手市長 ・横手商工会議所 ・平鹿建設業協会										
事業評価監視委員会の意見	事業継続を妥当と認める。										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	令和元年8月に横手北スマートIC供用開始										
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得率約31%、事業進捗率約32%										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後は早期完了を目指し、用地買収、工事を推進していく。										
施設の構造や工法の変更等	ほ場整備との調整による兼用排水路の設置等により、総コストの縮減に努めていく。										
対応方針	事業継続										
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。										

事業概要図



標準横断面図

標準部



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。